

豊高ギャラリー (13)

平成28年 8 月 3 日

今年度の豊高ギャラリー第2弾（第13回目）は書道作品が主です。ご堪能ください。
なお、豊高管理棟1階の廊下に飾っております。ご来校の際には是非ご覧ください。

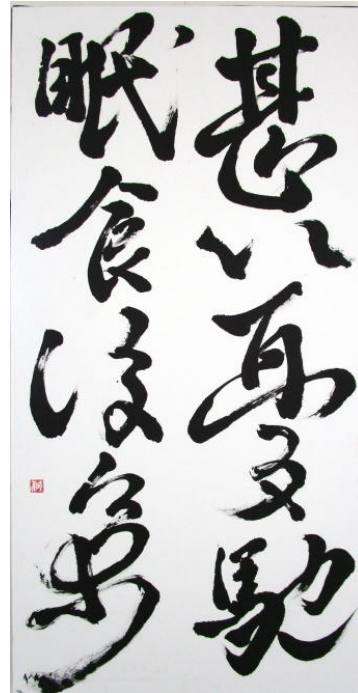
今生（いまいき）



今を生きようという気持ちを込めて書かれています。
生命感あふれる作品です。

臨王献之尺牘集

（りんおうけんのせきとくしゅう）



中国晋時代の書聖 王羲之の子 王献之の書。
全体を通す一字一字の流れがあり、骨格もしっかりした作品です。

臨始平公造像記

（りんしへいこうぞうぞうき）



中国北魏時代の書を臨書した作品です。造像記の独特の用筆で、力強さと切れ味の良さを合わせ持つ書となりました。（書下し）「夫れ靈障啓かざれば、則ち宗に攀るに尋ぬる靡し。容像陳せざれば、則ち」（意）「そもそも釈迦がこの世にお生まれにならなければ、その教えを求めようにも手がかりが無く、仏像が作られなければ」

四弦（しげん）



四弦とは、ベースの弦の数。紙面の中の空間の作り方を工夫しつつ、リズム感あふれる書となっております。

大日魂



大日本プロレスが好きで、「負けのない字」にしようとして取り組んだ作品。スケールが大きく、実に堂々とした書です。

月への道



狐が星の道を通って月へ向かっている様子を描きました。難しかったところは、狐の走る姿をうまく表現するところです。その狐も違うポーズで躍動感が出るように描きました。月の塗り方、雲の表現など工夫したところはあるのですが、まだまだ修正が必要などころが多い作品でもあります。もっと丁寧を描けるよう、次は頑張りたいです。



紫水晶(むらさきすいしろう)
伸びやかな線ですっきりと言葉にあった表現で書いています。墨色も工夫しています。

蒼海 (そうかい)



かすれた線が筆の勢いを感じさせます。伸びやかで素直な書です。

人狼 (じんろう)



「人狼」はゲームの名前。型にはまらずいろいろな表現を試みて、表情豊かで、余白の美しい作品になりました。